

税に対する私の考え

秋草学園高等学校

一年 横山 萌

日本の消費税率は世界規模でみると、割と低いほうだ。一方これは、政治資金が他国より少ないことも意味するのではないか。その少ない資金で、国を支えさせていくところは、日本政府の腕の見せ所だと私は思う。

その日本は、多額の国債を抱え、その額は国民一人あたり八百万円にのぼるそうだ。これを聞くだけで一大事であると感じるが、問題は他にも山積みだ。少子高齢化、人口減少、領土問題、食料自給率などなど。

私たちが納めている税金のうち、どれだけの額がこれらの問題解決に役立っているのだろうかと思う。

このままだと、私たちの世代が高齢を迎えたとき、年金が今より給付されないという話を耳にする。つまり、これから将来を担う私たちの世代や、それより若い世代の人々が納めていく税金は、高齢者向けに使われ、私たち自身は納めた分の恩恵を受けられず損をしているように感じるのは、間違いないのだろうか。

そのように感じるのは、高校生である今でも、きちんと納税しているからである。ひとつ例を挙げると、高校生は買い物などで、必ず八パーセントの消費税を納めている。

高校生の納税の財源は、大きく二つあると私は思う。

一つは、親が稼いでくれたお金をお小遣いなどとして受け取り、それで納税をする。これはどちらかというと、親が納めていることになるが、自分の財布からの出費と考えると、私は高校生の財源であると考ええる。

もう一つは、バイトなどで、自分でお金を稼ぎ、それを使い納税する。この方法は、自分の稼いだお金で納税しているから、大人と同等の納め方だろう。

少ない財源から納めているにも関わらず、恩恵が受けられないと感じてしまうのは、税金がどのように使われているかを知らないからだ。

だから私は、政府などがもっと、税金の使い道を国民全員に提示し、どのように使ったかを報告すべきだと思う。今現在、そうした取り組みが行われているかもしれないが、もう少しわかりやすい形で知らせるべきだ。現に私は、教科書で過去の税金の内訳をみたことがあるくらいだ。過去の支出はわかっても、今日現在の支出はわからない。納税は国民の義務であり、知る権利もあるから、支出はわかって当然だと思う。提示する中で、税金が私たちのために使われていることを証明し、納税した人にその分の恩恵が与えられていることを示してほしい。

こうして、税金の使い方に対して、様々な立場の人が納得することが、今の日本の税に対して、重要なことであると、私は考える。

税の在り方と私たちにできること

聖望学園高等学校

二年 高山 七虹

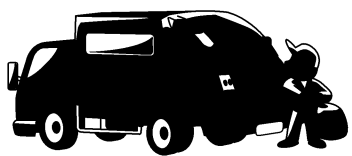
「税は公共サービスの対価」と言われるが、実際にどのような公共サービスや施設があるだろうか。調べたところ、警察や美術館など様々な種類が見られたが、私の目に留まったものは、ゴミ処理である。指定のゴミ袋に入れて指定の日に出せば、ゴミ収集車が持つて行ってくれる。あたり前のように考えていたが、実は税金が使われている身近な例だ。このようなサービスが暮らしの中に自然に溶け込んでいるのは素晴らしいことであり、私はこれも税の意義の一つであると考えてる。

公共サービスは非競争性と非排除性を持つので、もしも個々に利用料金を請求するとすると、対象となる利用者を限定することが困難になる。又、評価を正確に把握して料金を決めなければならぬ。先程のゴミ処理を例に挙げると、ゴミの量や内容によって値が変わるので、ゴミの収集人は一軒ずつ重さや内容を調べ、料金を決めることになる。収集してもらう側も、毎度料金が変わり、時間がかかるのでは煩わしく感じるに違いない。つまり、税が無ければ社会はスムーズに動かないのである。私は、税とは「便利だ、助かると思うものを暮らしに溶け込む形のサービスや施設に変えるためのシ

ステム」だと考える。

一方、こうした税の使い道は国民の代表者が決め、私たちは自分の希望に最も近い考えの人を応援する。国民の代表者が支出の在り方を決めることと、自らが税を負担することは表裏一体なのだ。先日、都知事選のニュースで一人一人の政策を聞いていると、これらの政策はすべて、私たち国民が払う税を使って動かされるものだと改めて気付かされた。私たちにとって、どの税の使い道が最も役立つかという見方をし、関心を持つことも納税者として大事なことだと思う。

このように、自分の意見を持つことで、より良い税の使い道が見い出せる。しかし、公共サービスや施設には、多額のお金が必要になる。小学校から高校まで、公立の学校に通った場合は、千百六万一千円の税負担になるといふ。暮らしに溶け込んで当たり前のように感じているサービスも、国全体の努力のおかげで受けている恩恵だと思えば、世界の見え方が変わるはずである。私たちにできることは、税の在り方を知り、国民の努力で集められた税をどのように生かすかを一人一人が考えることである。



これからの日本を支えるための税

芸術総合高等学校

三年 湯 徳 希 望

税に関して、私は増税するべきだと考える。

確かに、税金が少ない方が消費者の負担が軽い。また、増税には消費の抑制により、企業の倒産や失業者の増加のリスクがある。しかし私は、未来の日本のためには増税が必要だと強く主張したい。

現在、日本は少子高齢社会であり、どちらかというところ、高齢者のための国づくりに重きを置いている。政治家の選挙活動もより国民に支持されるためか増税反対の傾向にある。つまり、自分たちの生きている世代の問題ばかり目を向け、未来について本気で考えている政策が少ないのである。高齢者のための社会保障関係費があるが、少子高齢化により、若者の負担が大きくなっている。若者が苦しい状況になるということは、高齢者も苦しくなるといふことだ。先延ばしにすると最終日近くに大変な思いをする夏休みの宿題のように、今だけ良くて、その分の代償は必ず後から自分に帰ってくるのだ。だから、私は、未来の社会を支える子供のために、教育により、力を入れることが大切だと考えた。子育てをしていくにも、長い時間と莫大なお金がかかり、一人育てるのも大変である。今時シングルマザーやファザーもそう珍しくな

い時代、一人で子供を育てるのは困難であり、社会全体で協力すべきだ。子育てをする母や子供のための社会保障やサービ、義務教育の小・中学校だけでなく、高校や大学の学費を税金で少しでも補うなど、方法は沢山ある。教育の質も高めることによって、社会で生きていける質の高い人材が増え、一人に対する重い労働も軽くなっていくのではないだろうか。もちろん、今の労働者のための保障なども忘れてはいけない。ブラック企業やニートなど、労働問題が多くある日本で、仕事に対してやりがいを感じている人は、おそらく減っているだろう。心身共に疲労している大人が増えており、そんな大人を見た子供は大人になりたい・働きたいと思うだろうか。グローバル化が進む中、今のままの日本では、海外の国と渡り合うどころか、国内の問題で自滅する一方である。土台がしっかりしてこそ、安定して高い所で立てるが、今の日本は土台が隙間だらけの中、高みを目指している。今日本がやるべきなのは、高みを目指すためにも、まず土台をしっかりつくることだ。そのためには、労働者や子供のために今よりも力を入れて税金を使うべきだ。

これからの日本を支えるためには、正直増税だけではこの多大な問題は解決できない。全ての問題が繋がっているからである。だから、多方面から変わっていかなければ、国は変わらないのだ。また、制度や法だけではなく、国民一人一人の考え方も変わっていかなければ、同じことを繰り返すだけである。そこで、一つの変わるきっかけとして、税からはじめてみてはどうだろうか、私はここに提案する。

日本の未来と税

聖望学園高等学校

二年 狩野 梢 来

現代の日本が抱えている社会問題に、少子高齢化がある。年々子どもの数が減り、高齢者が増えている。介護する人も少なく、高齢者の孤独死や、認知症による行方不明のニュースもよく耳にする。そんな人手不足の中で、最近議論されたのが社会保障についてだ。私はこの制度が消費税と関わっていることを知った。私たちとの関わりと未来について考えようと思う。

まず私は、社会保障について調べてみた。すると、それは個人一人ひとりを支えるというものではなく、みんなで分かち合うというとても大切なものだと分かった。社会保障が充実すれば、年金や医療費、介護等の負担が減ると思う。私たちが年金を受け取るようになったり、介護を必要としたりするのは、まだまだ先だ。しかし、支え合うというのは、年齢は関係ないと思う。では、どうすれば高校生の私たちも共に支え合えるのか。ニュースを見ると、それは私たちにとっても身近な消費税が関わっていた。

私にとって消費税は、外国に比べたら少ないが、八パーセントに引き上げられて負担が増え、あまり良く感じていなかった。しかし、「社会保障と税の一体改革」は、消費税の引

き上げによる増収分をすべて社会保障に充てるというもの。引き上げによって買い物毎の負担は少し増えるが、自分が払ったお金が社会保障に充てられ、人の役に立つ。これはとても素晴らしいことだと思った。直接介護することができなくても、この制度によって多くの人を支えることができる。私が大人や高齢者になった時には、支えてもらうことができる。私氣づいて、消費税への気持ちが変わった。税は暮らしを豊かにすることができると思った。

高校生の私が直接手を貸して人をサポートするのは難しい。しかし消費税としてならできると思った。まだ制度が充実していない今、私たちにできるのは、親切な心でのサポートだけだ。しかし大人になり自立すれば、税の種類も増えていく。改めて税は私たちの生活に深く関わっていると思った。一人の人間としての自覚を持ち、税を通して人と支え合い、社会に貢献していきたい。



私の五千円のおこづかいから、 日本の未来を考えてみる

秋草学園高等学校

一年 大野 里花子

税金の作文宿題がでなかったら、私は税金について考える機会は大人数になるまでなかっただろう。税金って何だろう？私にはまずそこからだった。

税金とはこうある。「国や地方公共団体が活動を行うための費用」これは身近なことに置き換えると、父が一ヶ月働いてもらったお給料を、母が食費・住宅ローン・公共料金・消耗品と使い道を考えて分け、なるべくその範囲で生活できるように毎月頑張っている姿になるだろうか。私の場合は毎月五千円のおこづかいを、今月は雑誌を買おうか、スタバの新作を飲もうか大きな決断をせまられるといった所だろうか。

私に一番身近な税金は消費税だ。おこづかいで買う物全てに消費税がかかり、国に納めているのだ。こう考えると、買い物をするだけで国の為に大事なことをしている気持ちになる。

その次に身近な税は何だろう、全く浮かばず困っていると、母がこんな税金もあるのよと父の給与明細を見せてくれた。そこには所得税と住民税とある。所得税は毎月の所得に応じて税額が変わり、住民税は前半の所得に対して住んでいる市に支払っていると教えてもらった。

所得に応じて税額が変わる、所得が多い人も少ない人も、働くという事で「国を支える」勤めを果たしているのだ。普段生活している中では全く感じることはできないが、日本という国は税という「人が人を助けるシステム」の上に成り立っているのだなと知ることができた。

母が毎月無駄のないようやりくりするように、私が五千円のおこづかいを有効に使う方法に頭を悩ますように、この国のお金を預かっている人も頭を悩ますように違いない。母は私たち家族六人と犬二匹の幸せを考えているだろう。みんなが笑顔で過ごせるように。

税金を預かり、社会保障、防衛費などの使い方を考える人にも、母と同じことを考えて使い道を決めてほしい。なぜなら、日本のみんなから預かっているお金だから。赤ちゃんも学生も高齢者も体の不自由な方も、みんなが笑顔になる為のお金だから。

税金に詳しくない私でも、今年に入ってニュースで耳にした言葉にタックスヘイブンがある。大企業の税金のながれが今問題になっている。収入が少ない人でも、納税の義務をはたしている。人を助け、巡り巡って自分を助けることになるからだ。大企業の目は、今どこに向いているのだろうか。見たいのは日本国民の笑顔ではなく、大企業という目に見えない笑顔なのかもしれない。

今回は人が人を助ける税金というシステムを考えるととても良い機会だった。一人一人のお金の使い方が、隣の人の幸せにつながっていきますように。さて、私も考えるところ。来月のおこづかい何に使おうかな。

私たちの知るべきこと

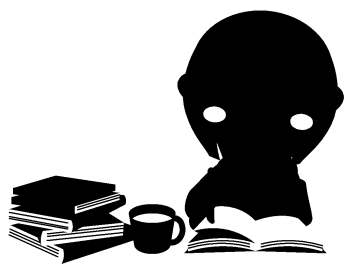
聖望学園高等学校

二年 中村 日向子

税金の作文を書くにあたって、私は全くと言っていいほど税金に関して興味も知識も持ち合わせていなかった。税金についてなんて何に使われているのかも良く分からないし：などと思っていた。面倒になった私はふと近くにあった本を讀み出した。その時（あれ、そういえばこの本、図書館の本なのか）と思った。家の近くにある図書館だつて公共施設なのだから税金が使われているのだ。こんなに近くに税金の使われているものがあったのだから、他にもあるはずだ。そう思って私は探しに出掛けることにした。税金でまかなわれているものは家を出たとたんに見つかった。それは神社だった。私の家の前には古く大きな神社がある。その神社がこの度老朽化で修復工事がなされることになったのだ。そのことについて調べようと、市のホームページを見て驚いた。なんと神社の修復費用は二億円以上もかかるというのだ。そしてその費用の一部を税金でまかなうと書かれていた。おそらくその神社だけではないだろうと思ひ調べた。すると私の地元にある数多くの神社の運営資金は市や県からの補助金、つまりは税金でまかなわれていることを知った。そのほかにも私が毎日歩いている道の整備費だつて税金だ。

私の身のまわりには意識していなかっただけで、とてつもない数のものたちが税金でまかなわれている。少し興味がわいて税金について調べていると、あるビデオを見つけた。小学生に税金について知ってもらうために作られたそのビデオは想像を絶するものだった。税金がないというその世界は警察はお金を払わなければ道も教えてくれない。救急車も有料。救急車が走る道はボロボロで、ゴミ収集車も来てくれず町は悪臭であふれかえる：というものだった。淡白なアニメーションの中の風景は死んだ町になっていた。税金がない、それだけでこれほどまでに生活が変わってしまうのか。今の日本が世界的に見ても豊かなのは税金が私たちの生活を支えていてくれるからだ。

確かに今の高校生に「税金に関心を持って」と言っても難しいだろう。だが今年から十八歳選挙が導入された。このまま税金についてぼんやりとした意識のままでは、一票を無駄にしてしまうのではないだろうか？これからの未来を担う私たちだからこそ、もっと税金について知っておく必要があると思う。



税の存在

聖望学園高等学校

二年 森 田 柚 紀

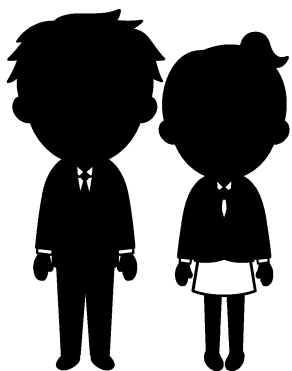
私は初めに「税」と聞いてあまりピンと来ませんでした。大体のことは知っていました。税の意義や役割をしっかりと理解できていなかったのです。勉強していく上で分かってくるということがあります。

一つは、税の意義や役割です。私たちが納めた税は日本の歳入の約6割を占めています。その納めた税の多くが私たちの生活にも使われているのです。例えば、社会保障関係費。これは、私たちが安心して生活していく上で必要な医療、年金、介護、生活保護、社会福祉などに使われているのです。また、文教及び科学振興費では、教育環境の整備や科学技術の発展のために使われています。その内訳は、教科書の無償配付や国立大学法人、私立学校の助成などです。学生である私たちも税に支えられていることがたくさんあるのです。たくさん税があります。このようにどの税にも「意味」があるということ。そして、その税は、私たちが納税の義務を果たすことによって成り立つのです。

もう一つは、税への意識。それぞれがもつと税に対し関心を持ち、役割や意義をしっかりと理解した上で考えていくことが大切だと私は思います。ただただ批判をするのではなく、

各自がしっかりと向き合い考えること。そのことにとっても意味があるのではないかと、とも思いました。私はまだ学生ですが、これから大人になるにつれて税に関わることも格段に増えてきます。その時に、しっかりと理解していかなくてはなりません。で頭が追いつかず混乱してしまったりなどを防ぐためにも、学生のうちから少しずつ税に触れていくことも必要だと感じました。他人事ではなく、これからの日本にも関わってくる大事なことです。そういった意識を持っていきたいです。そして、多くの人が税に関心を持ち、意識を変えられることができたのなら、日本は少しずつ変わっていくと思います。

最後に、私たちは税の意義や役割をしっかりと理解しておくべきです。そして、しっかりと向き合っているべきです。その上で、どこまで「公共サービス」として提供して、どこから税金で負担するべきか、「受益（公共サービス）」と「税負担」の在り方を考え、国民であり納税者である私たちが選択していくことが大切なのです。



消費税増税の行く末

芸術総合高等学校

三年 北谷 凛

今年のニュースで、消費税率十パーセントへの引き上げを延期されることが話題になったことは誰もが記憶しているだろう。消費税は私たち学生にとっても一番身近で、自分が負担者であることを実際に感じながら払う税金だ。それゆえに増税することへの国民の意見は様々である。

消費税増税のデメリットとして、まず国民の負担が増えることが挙げられる。増税反対の意見をもつ人が多い一番の理由であろう。また、低所得者の生活が苦しくなる可能性も否めない。私たち国民にとつてのこれらのリスクは、少子高齢化に伴って高まっていく。高齢者一人に対して、負担する若者の人数が減っていくことが問題だ。また、さらに大きく言えば増税することによって、中小企業の倒産、国内の消費が減り景気が悪化するおそれもある。世間での増税に対して論争、意見の分裂は、このデメリットが引き起こされることがポイントになっていると考えられる。

しかし、これらのデメリットのリスクもあるが、増税が私たち国民にもたらす恵沢も大きい。税金が増えることで国の予算が増える。それによって社会保障制度が安定し、人々がより安心して暮らせるようになる。例えば、この社会保障制

度が質の低いものになると、救急車を呼ぶ際に、高額な料金が発生したり、また、生活に困窮する国民に対しての生活保護サービスも保障されないものとなる。増税のデメリットとして低所得者の生活が苦しくなることを挙げたが、少ない税金で予算が足りないと、さらに生活が困難になる人々が増える可能性もあるのだ。そして何より、増税によって予算が増えるところ数年での地震・災害の被災地への復興にまわすお金が増える。地震大国とも呼ばれる日本において、国民が税金を払うことはそうした支援の一部になり、地道とはいえ手助けをすることになる。

私は、必ずしも増税が良い、賛成だ、とは一概には言えない。しかし増税をすることによって負担した分、生活の基盤となる部分は支えられる保障がつくと考える。こうした税の問題で、アメリカのような「低福祉低負担」、スウェーデンのような「高福祉高負担」どちらがいいか、といった話がよく取り上げられるが、まずは自国の特徴や傾向をつかみ判断すべきではないか。また日本には多くの借金がある。そのような問題も考え、政府がどう動くのかが私たち国民が一番期待するところであり、また疑うべきところでもあるのかもしれない。

